

# 百々よみとりおけいこ①（低）

名まえ（）

こんにちは。これからみなさんに百々小学校にまつわるいろいろなおはなしをしようかいして、こうとおもいます。このプリントにしつかりとりくんでもらえれば、必ず文をよみとる力がつき、また百々ちいき・山科ちいきのことをますますすきになると思います。ぜひ、がんばってとりくみましょう。

まずは、このちいきのおもなさんぎょう、きよみずやきの話からはじめます。

むかしから京とにはよいんねん土を出すところがありました。うら山でも、たくさんのがん土がとれました。みんなさんもしつていて、ねん土はこねこねしていろいろな形ができます。しかも、それをかわかしてやいたら「陶器」ができて、うつわとしてじょうぶに使うことができるのです。むかしの人にとってこれはすばらしい発明でした。こわれないかぎりくりかえし、つかうことができるのですから。

やがて色つきのやきものもやかれるようになりました。そうして、お茶のどうぐもたくさんやかれるようになりました。野々村仁清や尾形乾山といったすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中ごろになると石の粉からつくる磁器がやはりはじめて奥田穎川・青木木米といつた人がかつやくしました。この木米といふ人と、仁清、乾山の三人を「京焼二名工」という人もいます。

明治時代になると、そのすばらしさはがいこくでもしられ、たくさんの陶磁器がゆ出されるようになりました。つぎは山科に清水焼団地ができたことをはなしますね。

おんどくサイン→

① 何の話でしょう？

( ) たこやき ( ) たいやきのれきし

( ) きよみずやきのれきし

② 百々小学校だけのこのプリントをなんといいますか？

( ) このプリントにしつかりとりくめばどんないことがあるか一つまとめましょう。

( ) 力がつく。

( ) がすきになる。

④ 陶器でたくさんつくられるのはつぎのうちどれですか？

( ) そうじのどうぐ

⑤ 陶器はなにからつくりますか？

( ) すな ( ) 石 ( ) ねん土

⑥ 磁器はなにからつくりますか？

( ) すな ( ) 石 ( ) ねん土

⑦ 陶器と磁器をひつくるめてなんといいますか？ひらがなでかきましょう。

( )

⑧ あつているものに○をつけましょう。

( ) 江戸時代になるとたくさんの陶磁器がゆ出された。

( ) ねん土をこねてかわかしたらじょうぶなうつわになる。

( ) 江戸時代中ごろには、磁器がはやりはじめた。

⑨ おもつたことを五行でまとめましょう。

できばえは？



# 百々読みとりおけいこ①（中）

名前（ ）

こんにちは。これからみなさんに百々小学校の校区にまつわるいろいろな話をしようかいして、いこうとおもいます。このプリントにしつかりとりくんでもらえれば、必ず文をよみとる力がつき、また百々ちいき・山科ちいきのことがますますすきになると思います。ぜひ、がんばってとりくみましょう。

まずは、このちいきのおもなさんぎょう、きよみずやきの話からはじめます。

むかしから京都にはよいんねん土を出すところがありました。東山（山科から見れば西野山）でも、たくさんのねん土がとれました。みなさんも知っていることでしょうが、ねん土はこねこねしたらいろいろな形が作れます。しかも、それをかわかしてやいたら「陶器」ができる、うつわとして清潔<sup>せいけつ</sup>に、丈夫<sup>じょうぶ</sup>に使うことができるのです。古代人にとってこれはすばらしい発明でした。こわれないかぎりくりかえし、つかうことができるのですから。

中世には色つきのやきものもやかれるようになります。そうして、江戸時代にかけてはお茶のどうぐもたくさんやかれるようになりました。野々村仁清<sup>ののむらにんせい</sup>や尾形乾山<sup>おがたけんざん</sup>といつたすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中期になると石の粉<sup>こな</sup>を原料とする磁器<sup>じき</sup>がはやりはじめ<sup>おくだえいせん</sup>て奥田頬川<sup>おくだほくせん</sup>・青木木米<sup>もくべい</sup>といつた作家がかつやくしました。この木米という人と、仁清、乾山の三人を「京焼<sup>きょうやき</sup>三名工」という人もいます。

明治時代になると、京焼のすばらしさは海外でも有名になりました。次回は山科に清水焼団地ができることを話しますね。

音読サイン→

①何の話でしよう？

（ ）たこやき （ ）清水焼のお客さん

（ ）清水焼のれきし （ ）清水寺のれきし

②百々小学校だけのこのプリントをなんといいますか？

③このプリントにしつかり取り組めばどんないいことがあるか二つ書きましょう。

④東山という言い方はどこから見た言い方ですか？

（ ）山科（ ）京都ぼんち（ ）しがけん

⑤陶器<sup>とうき</sup>はなにからつくりますか？

（ ）磁器<sup>じき</sup>はなにからつくりますか？

⑦陶磁器<sup>とうじき</sup>とは何と何をたし算したことばですか？

⑧あつているものに○をつけましょう。

（ ）江戸時代になるとたくさん陶磁器<sup>とうじき</sup>がゆ出された。

（ ）粘土<sup>ねんど</sup>をこねてかわかしたら丈夫<sup>じょうぶ</sup>になれる。

（ ）江戸時代中期になると磁器<sup>じき</sup>がはやりはじめた。

⑨上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？



# 百々読み取りおけいこ①（高）

名前（ ）

① 何の話でしよう？

( ) たこ焼き ( ) 清水焼のお客さん

( ) 清水焼の歴史 ( ) 清水寺の歴史

② 文に何が書かれているか理解する力のことを三文字でなんというか抜き出しましょう。

こんには。これからみなさんに百々小学校の校区につわるいろいろな話を紹介していくうと思います。このプリントにしつかり取り組んでもらえれば、必ず読解力がつき、また百々地域・山科地域のことがますます好きになると思います。ぜひ、がんばって取り組みましょう。

まずは、この地の主要産業、清水焼の話からはじめます。

昔から京都盆地には良い粘土を出すところがあります。東山一帯（山科盆地から見れば西野山一帯）でも、たくさん粘土がとれました。みなさんも知っていることでしょうが、粘土はこねこねしたらいろいろな形が作れます。しかも、それを乾かして焼いたら「焼き物」ができる、食器として清潔に、丈夫に使うことができるのです。古代人にとってこれは素晴らしい発明でした。これれない限りくり返し、使うことができるのですから。

古墳時代、京都でもたくさん須恵器が焼かれました。平安時代には、釉（うわぐすり）も使われるようになりました。

室町時代には色絵陶器が焼かれるようになりました。そうして、江戸時代にかけてはお茶の影響（えいきょう）で茶陶もたくさん焼かれるようになりました。野々村仁清や尾形乾山といったすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中期になると石の粉を原料とする磁器が流行し始めて奥田穎川・青木木米（おくだえいせん もくべい）といった作家が活躍しました。この木米という人と、仁清、乾山の三人を「京焼三名工」という人もいます。

明治時代になると、京焼のすばらしさは海外でも有名になりました。たくさんの陶磁器が輸出されるようになりました。次回は山科に清水焼団地ができることを話しますね。

音読サイン→

できばえは？



- ③ このプリントにしつかり取り組めばどんなないことがあるか二つ書きましょう。
- ④ 東山という言い方はどこから見た言い方ですか？
- ⑤ 焼き物の原料はなんですか？
- ⑥ 磁器の原料はなんですか？
- ⑦ 陶磁器とは何と何を足し算した言葉ですか？
- ⑧ あつているものに○をつけましょう。
- （ ）江戸時代になるとたくさんの陶磁器が輸出された。
- （ ）粘土をこねて乾かしたら丈夫なうつわになる。

（ ）古墳時代、たくさんの須恵器が焼かれた。

（ ）

- ⑨ 上の話の感想を五行でまとめましょう。
- （ ）